

第 29 期第 5 回仙台市図書館協議会会議録

- ◎ 会議の日時・場所 令和 2 年 1 月 24 日（金）10 時 00 分～12 時 00 分
仙台市役所上杉分庁舎 12 階 教育局第 1 会議室
- ◎ 出席委員の氏名 遠藤仁委員、加藤則幸委員、小林直之委員
今野広元委員、新迫宏委員、菅原孝代委員
根岸一成委員、松本由男委員
渡辺祥子委員、渡邊千恵子委員、渡辺通子委員
- ◎ 事務局職員氏名 市民図書館長 武者元子、市民図書館副館長 松島桂一
泉図書館長 高橋三也、宮城野図書館長 柴田聡史
太白図書館長 田中知代子、若林図書館長 山口宏
広瀬図書館長 相澤滋、榴岡図書館長 今野宏
市民図書館企画運営係長 早坂江美子
市民図書館奉仕整理係長 山田千恵美

◎ 会議の概要

1 開 会

2 挨拶

3 会議録署名委員指名

会長より、渡邊千恵子委員を指名。

4 報告事項

（1）令和元年度の事業成果について

（市民図書館副館長 報告）

資料にもとづき報告

議 長 情報の洪水の中、どのような形で図書館の情報を利用者に伝えていくか、長年の懸案事項だったが、今後は SNS の活用で確実に少しずつ成果を上げていくことだろう。良いことをすぐに発信すれば関心を持ってもらえる。成果を届けることは非常に重要である。発信することで職員の活性化にもつながっていくのではないかと。働き方改革と言われている時勢で、開館時間を繰り上げたことは、非常に好評である。業務量が増えて大変だと思うが、各館独自の企画を着実に実施しており好ましい状況だと思う。

委員の皆さんからどの項目に対してでも構わないので、意見や質問はあるか。

新迫宏委員 宮城野図書館で初めての企画として、「隠れたオススメ本フェア」を行ったということだが、面白い試みだ。12 月からポップとともに今まで貸出実績のない 60 冊を展示し

たということだが、これによってどのくらい貸出数があったのか。紹介ポップは職員が書いたのか。

事務局 昨日の展示終了までで、全体で延べ93回の貸し出しがあり、1冊あたり1.6回貸し出しという結果であった。紹介ポップは、最初に職員が見本で5枚ほど掲示し、その後一般の利用者から10枚ほど応募があった。

新迫宏委員 ほとんど貸し出しがなかった本が、展示したことによって期間中に1.6回貸し出しがあったことは素晴らしい。その方たちは当然本を読んでいる。面白い企画である。

渡邊千恵子委員 榴岡図書館の取り組みの中でSDGs^{エスディージーズ}の展示があった。SDGsは今企業でも社会でも取り組みが始まっているが、「それは何?」「どう読むの?」という方がまだまだ多い。ぜひ他の館でも積極的に行ってはどうか。「いろいろななかぞく」というテーマだが、私自身家族社会学を専門としているが、実際にはサラリーマンと専業主婦の家族だけではない、いろいろな家族がいるということは大事な着眼点である。

また、「レファレンスサービスの提供」において、「本の道案内」が刊行される予定とのことだが、図書館に行けば手に入るのか。

事務局 「本の道案内」は1年ごとの発行であり、レファレンスの蓄積の中から主だったものを選び出して紹介している。図書館で配布しているほか、ホームページにも掲載している。

渡邊千恵子委員 これは仙台市の図書館の独自のものか、それともレファレンス業務で汎用的に知識を得られるものなのか。

事務局 仙台市図書館に問い合わせがあり、司書がお答えした事例から編集している。仙台市以外の図書館でもレファレンス事例についての何らかのパンフレット等は作っていると思うが、仙台市では「本の道案内」というタイトルの冊子にしている。冊子化したら委員の皆様にもお配りする。

議長 渡邊委員の意見にあるように、各館でカバーしている領域が異なるので、情報を共有し、優れた取り組みを他館でも開催してみるのもよいのではないか。

小林直之委員 Twitter^{ツイッター}を活用した情報発信だが、出版社では新刊案内のほか、「こんな本あります」というテーマがある。例えば台風で大きな被害があったら防災の本を紹介する等、社会で起きたことに関連して、既刊本であっても紹介する。出版社の場合はそれが営業活動になるが、図書館では、図書館は社会とつながっており社会で起きたことに敏感である、というアピールにもなるので、「こんな本あります」のテーマを一案としてお話する。

もう一点、泉図書館では館長自身が読んだ本について掲示をしており、素晴らしい。館長がそのままブランドになるような取り組みだ。もっとアピールしてはどうか。

今野広元委員 移動図書館が昨年出展したPTAフェスティバルは仙台市PTA協議会と教育委員会と共催で行ったイベントだが、大変賑わっていた。訪れた保護者の方は、「こんなところに図書館があるなんて驚いた、子どもと一緒に行って大変楽しかった」とのことで、次年度もぜひ参加してほしい。

SDGsについては、子どもたちのこれからの学びの基本を作っていくために、我々保護者も関心を持とうと、少しずつ勉強会を開いているが、資料が少なく、書店で買う

と割高だ。榴岡図書館の展示は今回知ったが、今後は一般書も扱うということなので、興味がある。他の図書館でも行くとよいのではないか。

渡辺祥子委員 各館の地域性を生かした独自の取り組みは素晴らしい。市民図書館の「イベント・おまつり応援隊派遣」は、「応援隊」という表現がよい。先日、司会を務めた成人式に出展された図書館のブースを拝見したが、賑わいだけでなく、イベントに「厚み」が出ると感じた。それは、無意識のうちに記憶の厚みや知の無限の広がりなど本の持つ魅力や図書館の存在感によるものであり、そういう意味でも大変応援になっている。図書館のPRにもつながるが、図書館の特長がイベントにも良い影響を与えるので、図書館としても誇りを持って積極的に参加を継続してほしい。

松本由男委員 榴岡図書館の「選書サポーター会議」は、中学生や高校生が自ら参加している点が良い。行政が関わると、行政側がセッティングして、そこに市民が参加することになりがちだ。他の館も取り組んでいるかもしれないが、若い世代が自ら参加することによって活動が広がり、盛り上がっていくことは良いものだ。支えることも必要だが、「自立」という意識を高めながら、図書館を盛り上げてほしい。

新迫宏委員 選書アドバイザーや選書サポーターの活動は感心した。応募してくる中学生や高校生は、図書や文科系の部活動などをしている生徒が多いのか。もともと榴岡図書館や広瀬図書館に足しげく出入りしていた中高生なのだろうか。

事務局 もともと本に興味があり、図書館を利用している中高生が参加している。募集を行うとすぐに埋まる。自ら本を発信したいという要求があるのではないか。学校や部活単位で固まって参加しているわけではなく、他の区にお住まいの生徒も参加している。本当に本が好きと思われる。各図書館では、中高生向けの本棚（YAコーナー）を設けており、他の年代の利用者をも引き付けている。

議長 真山青果の作品には古い時代の南小泉あたりの人々の生活が描かれているが、あまりメジャーな作家ではない。若林図書館の「文学講座『再考!! 真山青果を知る』」のように、郷土ゆかりの作家との出会いを図書館が発信元になってコーディネートしてくれるのは非常にありがたい。文学館と連携した企画をしている点も良いと思う。

加藤則幸委員 中学校で生徒を見ていると、本好きの子は確実にいるが、学校生活では目立たないと感じる。図書館での活動の募集について学校現場にお知らせいただきたい。他にもやりたい子はたくさんいるのではないか。本好きの子たちが、図書館という学校とは異なる場面で光を当てられると、ちょっと誇らしげになれて素敵だ。

中学生や高校生は、お客様ではなく運営側を担った方がはるかに力を発揮する。図書館のヤングアダルトのコーナー等について、中高生を運営側のスタッフとして取り込んでいくとよいのではないか。

議長 どのように学校に情報を伝えるのが効果的だろうか。

加藤則幸委員 各地域の学校に、募集の情報が伝わる仕組みがあればよいと思っている。中学校の図書館研究会に情報を提供いただくなど上手に利用してほしい。

菅原孝代委員 移動図書館は、本校の児童が大変お世話になっており、休み時間に体育館脇に停車した移動図書館車に子どもたちが走っていく様子が見られる。各図書館のさまざまな取り

組みを聞き、教育現場にどのようにつないでいけばよいか考えている。小学校では、書店から本を取り寄せ子どもたちが直接本を手にとって、読みたい本を選ぶ機会を取り入れている学校は多いが、選書アドバイザーのように、公募という形で、若者の意見を積極的に選書に反映させるのは良い取り組みだ。

泉図書館の成人向けの朗読会に興味を持った。私自身、昨年酒田市で開催された学校図書館部会東北大会で詩の朗読会があり、本が手元にあってその詩が目で追えるわけでもないのに、耳からの刺激だけでここまで人を引き付けることができるのだと大変感動した。今後このような情報を、学校現場にも伝えていきたい。

小学校の教育研究会図書館部会全大会は、年3回あり、そういった機会に図書館の取り組みなどの情報交換を行い、先生方にお伝えすることができる。

成人式の図書館ブースは大変よかった。新成人が本の思い出を振り返るとともに、本や読書を強くイメージ付けており、とても効果的だ。

議 長 意見が多く出ているが、後程伺うことにして先に進めたい。報告事項の(2)「移動図書館の運営状況及び利用者アンケートの結果について」、事務局から報告願う。

(2) 移動図書館の運営状況及び利用者アンケート結果について

(市民図書館副館長 報告)

資料にもとづき報告

議 長 スーパーのような人の集まる場所だとしても、わずか30分の間にたくさんの利用者が集まるというのは、それだけ固定客が多く、楽しみにお待ちしておりますのだろう。

報告について、意見や質問はあるか。

渡辺通子委員 報告(1)にもあったとおり、主としてヤングアダルト層をターゲットにしたSNSやホームページを使った情報発信体制が整ってきているが、ヤングアダルトに対しても高齢者に対しても図書館が上手に空間づくりをしているという印象を受けている。移動図書館車両が1台新しくなるという話を伺っていたが、高齢者の方にさらに使いやすくしていく等、考えていることはあるか。

事務局 移動図書館は本当に幅広い年代の方にご利用いただいている。なお、今回の利用者アンケートは、中学生以上を対象にしたため、小学生を除く意見ということになっている。高齢者の方に使いやすい工夫としては、雨の日の足元の対策として、駐車場を固い地盤や舗装された場所に見直すことなどを進めてきた。来年度に向けて、移動図書館巡回日程表の改良を考えている。現在の日程表は情報量が多すぎるため、ご利用になる駐車場の巡回日がより分かりやすいように工夫していきたい。

議 長 本の背表紙を見て自分で選ぶ楽しみというのは当然あるが、「読書の道案内」のような感じで小さな紙に読んだ本をチェックできたりすると、図書館で新しい本との出会いのきっかけを作ることでもできるのではないか。

事務局 移動図書館に積む本は、利用者に喜んでいただけるよう、日頃からよく動いている本

や読まれている傾向の本をもとに、司書が選んでいる。

渡辺通子委員 駐車場の地図を見ると、仙台市域は本当に広い。また、ご高齢の本好きの方々に対して、各図書館で努力し、ここまで手を差し伸べていることがよく分かった。

事務局 仙台市は図書館の数が7館と、比較的規模の大きい図書館を拠点として整備している状況だが、さまざまな理由で移動が困難な方々がおられるので、図書館から出ていくサービスは、補完するものとして欠かせないと考えている。

小林直之委員 利用者に対して「どのような本が読みたいか」問いかけはしているか。

事務局 予約申込書で受付しているほか、読みたい分野の希望があれば、選んで積んでいくことも行っている。

小林直之委員 本当に至れり尽くせりだ。議長の発言にもあったが、スタンプラリーのように、例えば「漱石3部作」を3冊読むと達成とするような図書館側からのアプローチはあるかもしれない。

議長 その他の意見があれば後程うかがうので、協議事項に移る。協議事項(1)「令和2年度仙台市図書館運営方針・事業計画策定に向けた『重点事業』案について」事務局から説明願う。

5 協議事項

(1) 令和2年度仙台市図書館運営方針・事業計画策定に向けた「重点事業」案について

(市民図書館副館長 説明)

資料にもとづき説明

議長 仙台市図書館振興計画(第二次)の4つの方向性に基づき4つの柱を出していただいた。どの項目からでも構わないが、意見や質問はあるか。

根岸一成委員 重点(案)(1)についてだが、宮城県図書館においても震災に関する情報を収集してきたが、近年災害等々も多く、より一層資料を充実していかなければならないと考えている。図書館は、資料収集だけではなく、課題解決やさまざまな交流の場でもあり、今後その意味も増してくると思うので、取り組みを進めていただきたい。宮城県図書館としても、連携できるのであれば協力しながら情報発信を行っていきたい。

開館時間の繰り上げについては、30分とはいえ、職員の増員がない中、大変なことだろう。無理のない範囲でサービス向上をお願いしたい。

加藤則幸委員 重点(案)(2)については、具体的にどのような形の支援をイメージされているのだろうか。例えば、何かパッケージ化されたものを学校に配送する仕組みを作るのか、あるいは、子どもたちが図書館に行く仕組みをつくるのか、お聞きしたい。

事務局 既にパッケージ貸出は、防災や国際交流等のテーマで、多くの学校にご利用いただいている。資料は毎年改良し充実を図っており、引き続きPRに努めていきたい。

来年度は特に図書館における調べ学習の導入になるようなリーフレットを作成し、小学校高学年から中学生の世代を対象に届けられるよう検討しているところだ。図書館では本を読むだけでなく調べることができることを伝えていきたい。

加藤則幸委員 調べ学習の手引きのものだろうか。生徒に対して「図書館で調べておいで」と声かけができるものと考えてよいのか。

事務局 子どもたちが図書館で学ぶきっかけづくりと考えており、簡易的なものになる予定だ。調べ学習をする際に、図書館の職員が相談に乗ってくれることすらお子さんたちは知らないかもしれない。学校の先生方が、「図書館に聞けるよ」とお声がけいただけるようなものにしていきたい。図書館側としても、お子さんに対しては、大人向けとは異なる対応が必要になると思っている。

議長 読書通帳とは違う形で、図書館活用のきっかけの一つになるだろう。

菅原孝代委員 小学校での調べ学習は、パソコンやタブレットを利用し、家庭では家族や児童のスマートフォンで調べる時代になってきた。ネット環境が整えば整うほど、導入部分では本によるしっかりとした調べ学習が必要だと感じる。インターネットでは、調べようとしている課題に対しての正しい全体像の把握がなかなか難しく、偏った方向に行ってしまうことがある。語彙力が不足していると、検索ワードがなかなか見つけられないこともあり、調べ学習の基本になる部分が本で正しくできているととても効果的である。

子どもたちが求める本や参考にしたい資料については、研究部の役員の先生方から情報提供ができるので、必要に応じてお声がけいただきたい。

議長 学校現場と図書館の間でうまく情報を共有しながら、良いものを作れるとよい。

渡邊千恵子委員 重点(案)(2)の小中学校の調べ学習についてだが、高校生の探求学習の支援等が入るかどうか検討をしていただきたい。実際に高校生がそういった形で、図書館を利用している状況があれば、必要なだろう。

事務局 高校生支援や高等学校との連携も、このようなリーフレットという形とは別に進めていきたいと考えているところなので、併せて検討していきたい。

渡辺祥子委員 ある大学で、インターネットに掲載されている情報の元になっている資料を探す授業を行ったところ、探し出せずに苦労したという話を聞いた。

事務局 新聞記事や論文、百科事典等だけでなくさまざまな情報源があると思うので、司書の腕の見せ所だ。インターネットの情報は確実でないものや最新の情報でないものが、検索結果の上位に出てくることもあるが、書籍であれば発行日等が明確に分かる良さがある。図書館の資料を活用して、確認を深めていただきたいと思っている。

渡辺通子委員 話の論点がずれているような印象を受けている。ICTに関しては、教育部門であっても、図書館であってもそれぞれ進めなければならない中で、どう連携していくのか。すべて図書館でと言われても、図書館は万能ではないので、連携の仕方を考える必要がある。仙台市でもICT化が目まぐるしく進んでいると感じていながら、あえて質問するが、今後さらに進めていくという形、例えばペーパーレスを目指すなどの方向性はあるか。

事務局 図書館では、^{オーバック}OPACシステムという蔵書の検索システムを、利用者の方々に非常に便利に使っていただいているほか、太白図書館にICタグを導入するなど資料の管理についてのICT化を少しずつ進めている。また、古書をデータ化しホームページ上に掲載する作業も少しずつ進めており、新聞記事や専門分野のオンラインデータベースの充実を図っている。

議 長 メディアの多様化に従って、正しい情報を選択し活用する能力の育成は、ますます難しくなるのではないか。重点（案）（2）については形になったものを協議会に提供していただけたと思うが、委員の皆さんで議論を重ねながら良いものを作っていただきたい。全体の方向性としてはこのような形で進め、事務局でまとめるということによるか。

各 委 員 了解。

6 その他

（市民図書館長 説明）

配付チラシについて説明

議 長 次回の協議会の日程について事務局からご提案願う。
事 務 局 事務局から次回の協議会の日程について連絡。
議 長 以上で議事を終了する。

7 閉 会